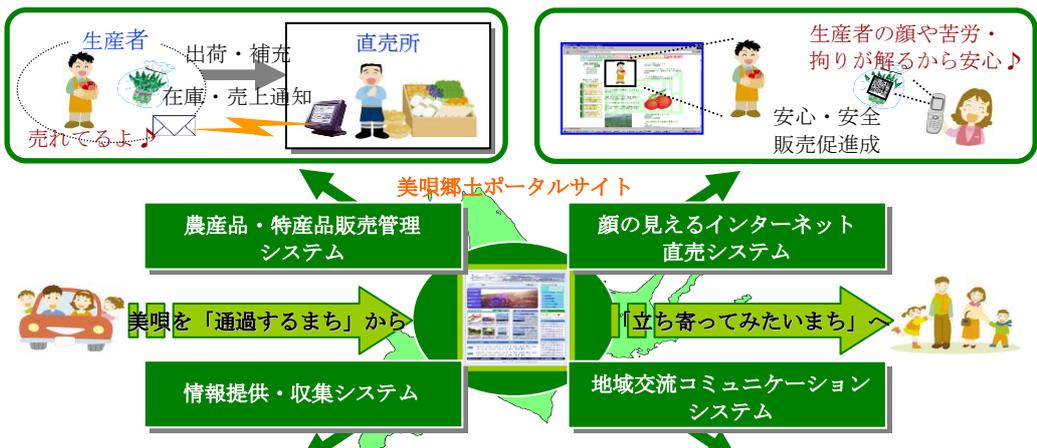


成果報告書

実施市区町村名	北海道美唄市
代表市区町村長名	桜井 道夫
事業名称	美唄郷土情報による地域活性化モデル事業
契約額	69,000,000円
事業実施概要	<p>美唄市は、三菱・三井炭鉱などによって炭鉱のまちとして栄えたが、閉山後は、石炭産業以外の農工一体の産業構造を目指し、企業誘致とともに土地改良事業等で優良な農地を拡大し、道央穀倉地帯としての地位を確立してきました。</p> <p>近年では、『おぼろづき』『ハーブ米』『雪蔵工房米』『アスパラ』、全国一の収穫量を誇る『ハスカップ』などの農産品に加え、『米粉』に代表される農産加工品、歴史ある『やきとり』、『とりめし』などが評判を呼び、一躍ブームになるなど地域ブランドになりつつある特産品が多数出てきています。</p> <p>このような発展的状況にありながらも、美唄市の知名度はまだ薄く、観光や特産品、農産品などの素晴らしい地域資源を多くの方々に認知してもらうことで、魅力あるまちづくりを進めることが重要課題であると考えます。</p> <p>これらの解決策としてICTを利活用し、農産品及び特産品に安全・安心や特色などのこだわり情報、さらには観光、歴史など様々な郷土情報を付加することで、美唄の地域資源を多くの方々に認知してもらうために、「情報提供・収集システム」、「農産品・特産品販売管理システム」、「顔の見えるインターネット直売システム」、「地域コミュニケーションシステム」等の機能及び情報などを共有する「美唄郷土ポータルサイト」を構築しました。これにより、美唄の知名度を高め、より多くの「美唄ファン」を獲得することで、魅力あるまちづくりを目指しています。</p> <p style="text-align: center;">【特産品および農産品等のブランド化に向けた地域課題を解決するための取り組み】</p>  <p style="text-align: center;">美唄郷土ポータルサイト</p> <p style="text-align: center;">農産品・特産品販売管理システム 顔の見えるインターネット直売システム</p> <p style="text-align: center;">美唄を「通過するまち」から 「立ち寄ってみたいまち」へ</p> <p style="text-align: center;">情報提供・収集システム 地域交流コミュニケーションシステム</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="351 1803 853 1971"> <p style="text-align: center;">他地域住民</p> <p>美唄特産品の購入 食や観光情報の取得</p> <p>特産物を購入したい♪ 美唄に行ってみよう♪</p> </div> <div data-bbox="877 1803 1380 1971"> <p style="text-align: center;">他地域住民 生産者</p> <p>コミュニティの形成</p> <p>農業を体験したい♪</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">【観光資源・情報等の課題を解決するための取り組み】 【交流環境の課題を解決するための取り組み】</p>

	指 標	目標値	結果数値	達成状況	計測方法・出典等
目標の 達成状況	郷土財産である地元農産物を利用したローカルレシピ情報の登録件数と安心・安全な食の提供に向けた生産者情報の登録件数	50 件	114 件	○	ローカルレシピ情報 DB 内の登録件数分析と生産者情報 DB 内の登録件数分析
	地域資源を活用した観光情報の登録件数	50 件	50 件	○	観光情報 DB 内の登録件数分析
	安全で良質な農産品、特産品づくりや、安定した経営確立と担い手の育成・確保に向けた知識・技術情報の登録件数	20 件	26 件	○	知識・技術情報 DB 内の登録件数分析
	各種サークルや団体など地域間の交流やコミュニティの形成・促進に関する情報の登録件数	100 件	70 件	△ ※1	SNS-DB 内の情報登録件数分析
	「美唄郷土ポータルサイト」を利用する生産者や市民、美唄ファンの会員登録人数	500 人	180 人	△ ※2	会員 DB 内の登録人数分析と生産者情報 DB 内の登録人数分析
	地域交流コミュニケーション機能 (SNS) の会員登録人数	50 人	52 人	○	SNS 会員 DB 内の登録人数分析
	美唄の知名度向上を図るための、「美唄郷土ポータルサイト」の全体 PV 数 (露出度)	25,000 PV/月	18000 PV/月	△ ※3	美唄郷土ポータルサイトのアクセスログ分析
	「美唄郷土ポータルサイト」の全体ページ数	400 頁以上	486 頁	○	美唄郷土ポータルサイトの登録頁分析
	特産品および農産品等のブランド化に向けたブランディング推進及びアグリビジネス指導会議開催人時 (人×時間)	200 人・h	214 人・h	○	ブランディング推進セミナーの開催時間実績と参加人数を分析
	地域 ICT 利活用モデル構築事業推進協議会等による生産者、消費者、住民の交流者 (事業参加者) 数	(生産者) 30 人 (協議会) 14 団体	(生産者) 65 人 (協議会) 14 団体	○	地域 ICT 利活用モデル構築事業推進協議会の参加者・参加団体実績
	利用者の満足度	80% 以上	83%	△ ※4	アンケート調査分析
	関係者の満足度	80% 以上	83%	△ ※5	アンケート調査分析
	「美唄郷土ポータルサイト」構築後の観光入込客数	40 万人 (9%UP)	40 万人	△ ※6	観光入込客数の調査分析

達成できなかった理由（△又は×の場合）	
※1	<p>地域交流コミュニケーションシステム（SNS）の会員による情報登録件数は、本日現在（3月31日）で70件と当初の目標（100件）に達していない状況です。</p> <p>しかし、本システムのサービス開始は3月25日であり、僅か7日間で目標の70%に達している状況から、1日の平均情報登録件数である10件を基に今後を推測すると、4月3日頃には計画した目標を達成する予定です。</p>
※2	<p>美唄郷土ポータルサイトを利用する生産者や市民、美唄ファンの会員登録人数は、本日現在（3月31日）で180人と当初の目標（500人）に達していない状況です。</p> <p>しかし、本ポータルサイトのサービス開始は3月25日であり、僅か7日間で目標の36%に達している状況から、1日の平均会員登録人数である25人を基に今後を推測すると、4月13日頃には計画した目標を達成できる予定です。</p>
※3	<p>美唄郷土ポータルサイトのページビューは、本日現在（3月31日）で18,000PVと当初の目標（25,000PV/月）に達していない状況です。</p> <p>しかし、本サイトのサービス開始は3月25日であり、僅か7日間で目標の72%に達している状況から、1日の平均PVである2,571PVを基に今後を推測すると、4月頃には計画した目標を達成できる予定です。</p>
※4	<p>美唄郷土ポータルサイトを利用する人の満足度は、本日現在（3月31日）で83%と当初の目標（80%以上）に達しています。</p> <p>しかし、本ポータルサイトのサービス開始は3月25日であり、僅か7日間の状況でアンケート回答者が60人と少ないことから、アンケート対象期間である5月8日を目途に再度、目標の確認を行うこととします。</p>
※5	<p>美唄郷土ポータルサイトを利用する生産者の満足度は、本日現在（3月31日）で83%と当初の目標（80%以上）に達しています。</p> <p>しかし、本ポータルサイトのサービス開始は3月25日であり、僅か7日間の状況でアンケート回答者が60人と少ないことから、アンケート対象期間である5月8日を目途に再度、目標の確認を行うこととします。</p>
※6	<p>美唄市への入り込み客数の調査について、サービス開始は3月25日であり、僅か7日間の状況では改善が見られたとしても適正な分析にはならないことから、観光客に対して美唄郷土ポータルサイトの周知期間が完了したと考えられる6月中旬を目途に目標の確認を行うこととします。</p>

注) 成果の達成状況欄には○（達成）、△（一部達成）、×（全く達成されていない）を記入すること。

注) 合計3枚まで。

<委託業務説明書>

1 平成19年度事業実施において明らかとなった課題

平成19年度、美唄市が抱える地域課題に対して、地域ICT利活用モデル構築事業推進協議会（以降、協議会と言う。）を設立し、住民視点や民間ノウハウから解決するための手段や方策、有り方を検討し、システムや事業運営に反映するために、農業及び商工団体、生産者、消費者等が協働で取り組みを進めてきました。

この協議会の中で、平成19年度事業実施の中から今後に向けた主な課題として図表1に示す8点が整理され、平成20年度以降、解決に向けて取組む予定です。

図表1 地域ICT利活用モデル構築事業推進協議会で整理された今後の課題

No	今後、解決が必要な課題
①	平成19年度において、美唄の農産品・特産品などの情報や観光に関する情報の提供を行う機能を構築したほか、会員を募り利用者（美唄ファン）から記事を随時収集する機能を有するシステムの開発を行った。しかし、平成19年度で対象とした提供・収集する情報（記事類）は動画を対象としていないため、観光客や利用者、リピーターに対し、魅力ある情報としてインパクトの薄い感がある。よって、今後は動画を採用することで、より「美唄のことを思い出してくれた観光客がまた美唄に行きたくなる環境の提供」、「美唄のことを思い出してくれる仕組みづくり」を検討することが重要。（直線日本一の国道12号線や渡り鳥のマガンが6万羽居留する宮島沼などへのライブカメラの設置も検討が必要）
②	定年後に大都市圏から地方に移住し、第二の人生を自然の中で健康的に送りたいと考える中高年が増えている。このような状況下、平成19年度に構築した美唄郷土ポータルサイトは、美唄の地域資源の知名度向上がメインであり、住民が生活する上で必要な利便性のある情報が充実しているとは言い難い状況である。美唄市においても少子高齢化や人口減少に悩む地方自治体の一つであることから、移住希望者の誘致にICTを有効に利活用し積極的に促進すると共に、衣食住職生に関する情報を充実し、美唄で生活する人にとって利便性のある情報の拡大が重要。これらの情報は地図情報を活用し、①美唄のお勧めスポット、②美唄の食、③美唄の出来事、④美唄の住み易さ（生活環境）、⑤美唄の人、⑥美唄で盛んな趣味等々に関する情報について、各世代の視点から様々な情報の掲載と蓄積が望まれる。
③	美唄の文化や歴史資産を記録精度が高く映像再現性に優れたデジタル映像の形で記録すると共に、それらの情報をICTの利活用により広く情報発信することで、ニーズが多様化している観光客の新しい余暇ゾーンづくりや文化歴史を活かしたまちづくりに資するものとなる。また、過去に美唄へ住んでいた人々に、記憶を再生し、美唄への思いを振り返っていただき、住民には美唄の文化や歴史、地域の生活・産業の情報を広く、深く伝えていくためのアプローチが重要。これらの情報は単に文化や歴史のアーカイブに留まらず、子供たちが参加して創り上げる仕組みを構築することで、地域や身の回りにあるアーカイブ素材を掘り起し、後世に残す情報価値のあるテーマを発見し、郷土文化教育への応用も可能となる。
④	平成19年度に構築した美唄郷土ポータルサイトにより、美唄市住民が一体となって地域活性化に向けて取組む仕組みが構築された。この美唄郷土ポータルサイトにおいて、地域商店街や商工会議所、地域組織・団体が、各々の目的に沿った幅広い方々から声を収集するアンケート機能が望まれている。これらの収集した消費者や利用者、観光客等の生の声の結果を、地場産業振興、新産業の創出、商店街の活性化、消費者ニーズの把握、ブランディング形成、新商品づくり等のマーケティングに活用することが地域課題を解決するために重要である。
⑤	近年の表示偽装問題や農薬付着問題などの発生により、全国的に食の安全確保が問われている中、農産物の生産履歴情報に対する消費者の関心が更に高まりつつあり、安全で良質な美唄産食品を消費者が安心して購入できるような食品供給システムの確立が緊急の課題となっている。美唄の農産物・特産物は、美味しさや新鮮さに加え、北海道の豊かな自然がもたらすイメージなどにより、全国の消費者からこれまで高い評価を得ており、食品の生産地域として、国内で非常に大きな位置付けにある。この美唄の特産物・農産物に対する消費者の信頼を更に確かなものとするため、安全・安心を支える具体的なシステムの構築に向けて積極的な取組みを行うことが重要。

No	今後、解決が必要な課題
⑥	<p>地域ポータルサイトのビジネスモデルは、魅力的なコンテンツを集積した地域ポータルサイトの構築によって、PV数やリーチ数を高め、媒体価値を向上させることで、広告収入を増加させ、さらに顧客に対しマーケティング・販促を提供することが重要である。</p> <p>「媒体価値」の向上は、広告単価のアップに直結し、マーケティング・販促に連動した収入の向上を図ることが可能となる。しかし、ポータルサイトの構築後は認知度が低く、地域ポータルサイトのビジネスモデルを成功させるためには、媒体価値を向上させるための取り組みが急務である。解決方法としては、他マスメディアとの連携や認知度の高い他ポータルサイトとの連携が有効と思われる。</p>
⑦	<p>平成19年度において、生産者同士、生産者と消費者等、参加権限のあるコミュニティ内での意見を活性化することで、新しい商品やビジネスの創出、美唄の魅力の再発見を目的としたSNS機能が構築された。同じ空間の中で安全・安心な情報を共有する居心地の良い環境コミュニティの意見交換の場として期待されているが、一方ではブログに比べて広く世間一般に対するアピール効果が低くなる、折角の良い意見交換の内容が公開出来ない、会員制のため検索エンジンからのアクセスが望めない等の懸念がある。よって、今後は情報公開による口コミ効果や新たな美唄ファンの創出ための一つ的手段として、SNS機能の他にブログ機能を配備する。これにより、用途に応じ町内会などの地域の自治組織や様々なグループ、企業、さらには個人が自由に参加でき、地域課題解決のために各々が持つ知恵や経験を持ち寄る場として活動内容や情報の公開・共有が可能となるばかりでなく、求めている側に即応できる等、新しい地域コミュニティの推進とコミュニティビジネスの振興が期待できる。</p>
⑧	<p>平成19年度において、農産物や特産物を売るための工夫や資源の価値を再発見することを目的に、アグリビジネスや野菜ソムリエなどの専門家による講習会、およびブランディング指導を行ってきた。結果、生産者のビジネス意識向上とブランド化の重要性が根付いてきており、今年度、指導を受けた生産者からも次年度以降、継続して指導願いたいとの声が大いことから、更なるブランディングに向けた活動体制の確立と、地元農家および売れる農産品・加工品への意識の向上を促進することが重要と考えている。</p>

2 自立的・継続的運営の見込み

美唄郷土ポータルサイトを始めとした各システムの継続運営を行うためには、運用体制及び運用管理要件を始めとしたセキュリティ要件や個人情報保護要件を厳守することは勿論のこと、長期的に安定した運営を行うためのしっかりとしたインターネットビジネスモデルの確立が重要な鍵となります。

特に、地域ポータルサイトにおける成功例は極少であると言われているが、もともと地域性と汎地域性は、文化人類学からマーケティングに至るまで、常に語られてきたテーマです。

地域には独自の魅力と有益性をもつコンテンツが存在しており、それは決して大手企業が運営している中央集権的ポータルサイトモデルでは表現できない、地域ポータルサイトの得意とする領域であり、現実に全国各地に、地域情報誌や地域ローカル紙、ラジオテレビのローカル局等の地域メディアが成立しています。

その背景としては、①人は地域という生活圏を舞台に活動し関係を結ぶ、②地域には人がかたちづくる独自の文化が成立する、③コンテンツはその文化を背景に地域に存在する、という構造が存在する。このように地域コンテンツは、地域マーケットにとって魅力的で有益であると同時に、その地域を訪れる人間、興味をもつ人間にとっても、魅力と有益性をもつ。つまり、そこにニーズが生まれ、市場が形成されます。

大手企業が運営している中央集権的ポータルサイトモデルは、これまで日本のインターネット利用者を牽引してきました。しかし肥大化するその情報は、地域で生活する住民にとって必ずしも有益な情報ではなく、また地域経済にとって有効ではありませんでした。インターネットが普及し、メディアとしての利用度が增大するに従って、地域の深くきめ細かな情報への希求力が求められることは必然であり、そこに地域ポータルサイトの可能性が大きく広がっています。

地域の文化を背景にもつ、メディアとしての地域ポータルサイトは、地域の生活・産業・文化の情報を流通させ、対外的には地域ブランディングの形成に寄与し、もって地域経済の活性化に貢献するものとなります。さらに共通のプラットフォームをもつ地域ポータルサイトの連携は、地域文化を基盤とする新たなポータルサイトの出現として、地域が成功をシェアし、日本のインターネットシーンを変えるものとなる可能性を秘めています。

これらを踏まえ、近い将来、平成19年度に構築した美唄郷土ポータルサイトを始めとした各サービスの提供により、独立した運営を行い、同じ課題を持つ他自治体の参考となるためのビジネスモデルの検討を現在強く進めており、自立的・継続的な運営の可能性が大きくなったと考えます。

尚、中長期的な運営に向けた検討にあたっては、住民視点から解決するための手段や方策、有り方を検討し、システムや事業運営に反映するために、農業及び商工団体、生産者、消費者等が協働で取り組みを進めている協議会が中心となり、意見の集約や調整を行いつつ、地元企業や青年会議所、農協青年部で構成される美唄郷土ポータルサイト運用プロジェクトが実施しています。

当該事業で構築したシステムは今後、実儒者等で組織する団体、若しくは農産品・特産品関連企業等が運営を引き継ぐ予定（H22年度以降を想定）です。市政及び観光情報等の発信にあたっては、美唄市が応分の負担を予定しているが、その他の運営費用は独立採算を基本と考えています。

3 今後の展開方針

(1) 基本方針

H19年度事業の実施にあたり、下記の4つの基本方針でのぞんできました。

- ①美唄というブランドを形成し、美唄市の価値を創造します。
美唄市の情報を魅力的なコンテンツとして形成、蓄積することで、観光・物産等の美唄市の産業に付加価値をもたらし、美唄ブランドを育て、新たな市場と価値を創出します。
- ②美唄市民にとって、地域を知り、地域への誇りを醸成するサイトとします。
「美唄郷土ポータルサイト」は、外への情報発信と同時に、美唄市民に対する地域の再発見、地域意識を醸成するものであり、情報利用の利便性の高いサイトとなるようにします。
- ③魅力的なコンテンツにより集客力を高め、サイトの価値を向上させ、ポータルサイト事業の収益モデルとして成功させます。
「美唄郷土ポータルサイト」を維持・運営していくために、豊富で魅力的なコンテンツにより集客力を高め、サイトの価値を向上させ、広告・物販等の事業モデルを確立します。
- ④美唄市民との協働によるコンテンツの創造と運営を進めます。
美唄の地域振興を目的とし、美唄市民との協働によるコンテンツの創造と運営を進めます。

(2) 今後の展開の考え方

今後の展開の考え方は以下の2つに重点をおきます。

- ①ICTを利活用した地域の課題解決と住民の生活環境向上に向けた先導的・モデル的な取組みを更に推進し、その成果を他地域に展開します。
- ②行政、農業及び商工団体、生産者、住民等の協働により、「やさしさと健康のまちづくり」、「快適なくらしを実現するまちづくり」、「豊かで活力ある産業が広がるまちづくり」、「文化と交流のまちづくり」の4つの重点方向について、ICTを利活用した継続的な取組みを促進します。

(3) 展開方針

(1)基本方針、(2)今後の展開の考え方を踏まえ、展開方針を以下のとおり整理しました。

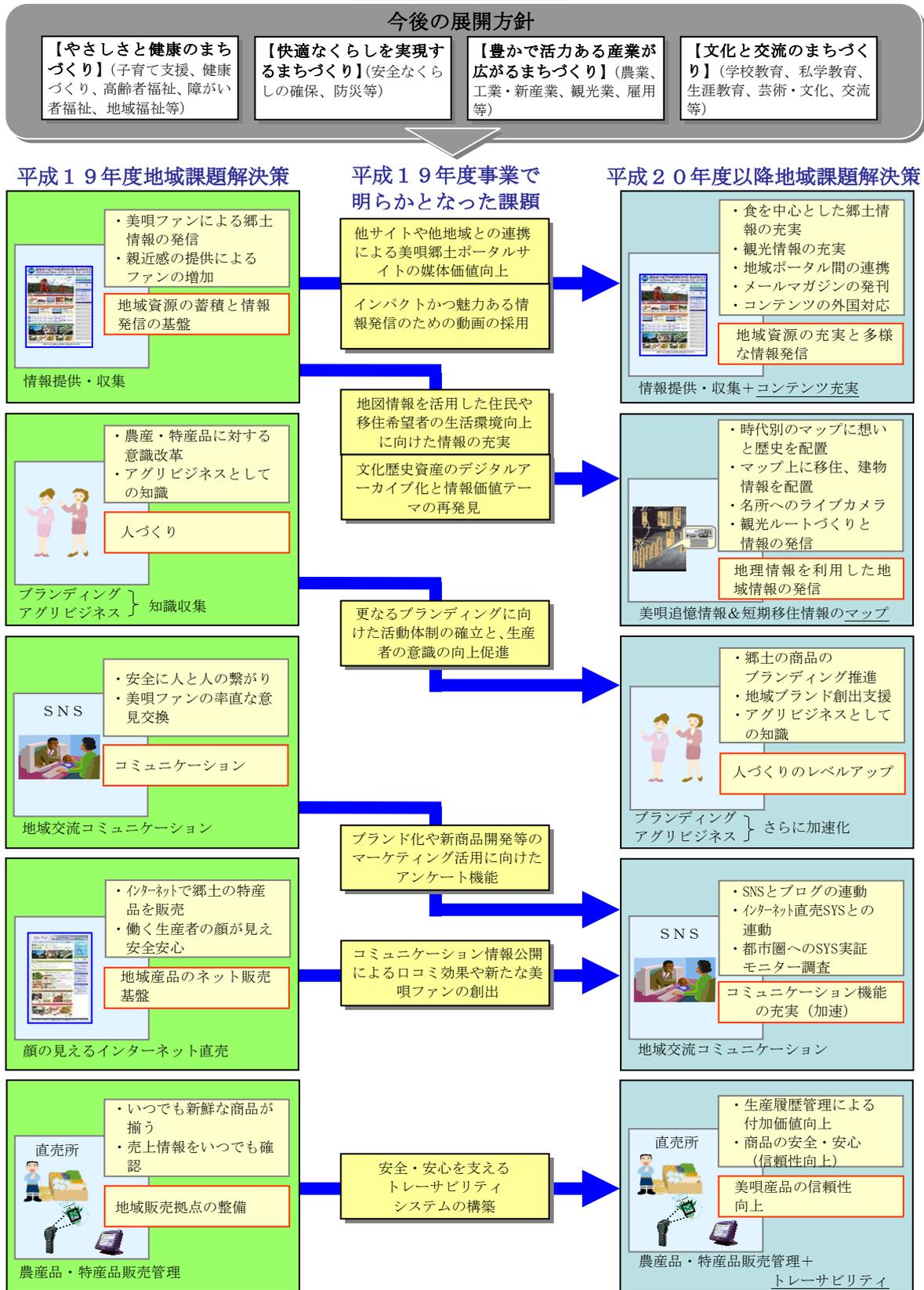
図表2 展開方針と内容

展開方針	内 容
【やさしさと健康のまちづくり】に向けたICT利活用の推進	子どもから高齢者まで、一人ひとりがライフステージに応じて安心して生活ができるよう、地域での取組みを支援するためのICTの利活用を推進。(子育て支援、健康づくり、高齢者福祉、障がい者福祉、地域福祉等)
【快適なくらしを実現するまちづくり】に向けたICT利活用の推進	安全で安心な地域社会の確立に向けたICTの利活用を推進。(安全なくらしの確保、防災等)
【豊かで活力ある産業が広がるまちづくり】に向けたICT利活用の推進	厳しい経済・雇用情勢が続く中、地域経済の活性化を図るため、農業や商工業の相互連携、地域の特性を活かした産業の育成などへのICTの利活用を推進。(農業、工業・新産業、観光業、雇用等)
【文化と交流のまちづくり】に向けたICT利活用の推進	教育、文化、芸術、スポーツなど、様々な活動や交流を通して、豊かで潤いのある日常生活を送ることができるよう支援するためのICTの利活用を推進。(学校教育、私学教育、生涯教育、芸術・文化、交流等)

(4) 今後の事業計画

協議会にて整理された「平成19年度事業実施から今後に向けた主な課題」と「今後の展開方針」を基に、平成20年度以降、地域課題解決策が必要と思われる事業計画を図表3に示します。

図表3 今後の事業計画



<システム設計書>

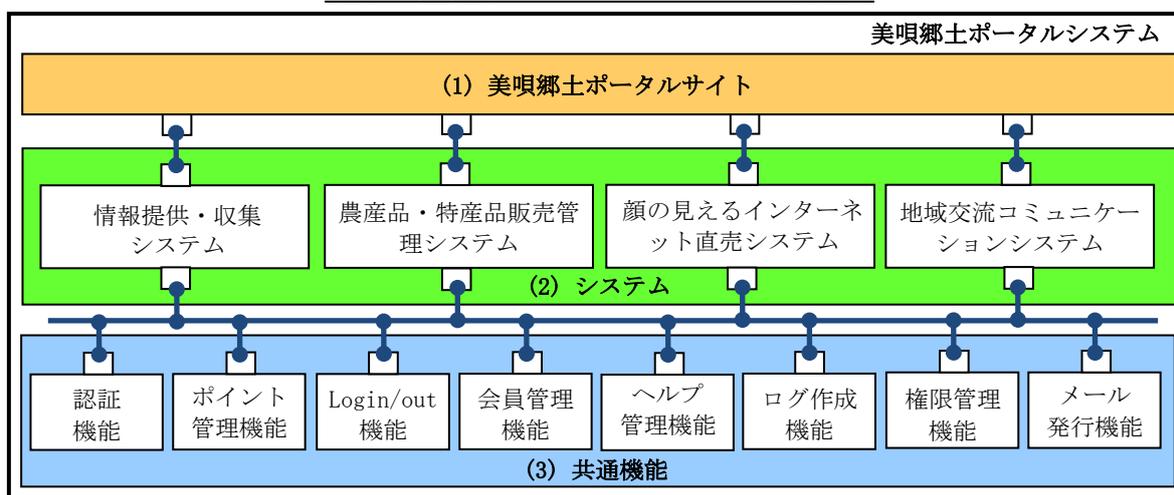
1 概要

美唄市の都市像である“人かがやき 夢ひろがる 美しき唄のまち”の実現に向けて、交流と産業振興（農業・産業と観光の振興）は、まちづくりの重点であり、「宮島沼」や「アルテピアッツァ美唄」、「炭鉱施設」等の既存の資源と豊富な農産物や農産加工品、特産品を有効に結びつけ、市内を循環して楽しむことができる観光づくりは、新たな産業の創出と産業振興には欠かせない要素です。

平成19年度に構築した美唄郷土ポータルシステム（以降、ポータルシステムと言う。）は、これら地域資源情報の集約と効果的な発信により、住民及び企業への情報提供はもとより、美唄の知名度向上と美唄ファン獲得のための基盤整備と創出を行い、明るい希望が持てる自立した地域づくりの実現に向けたサービスを提供しています。美唄郷土ポータルシステムの全体構成を図4に示します。

開発したシステム構成は、各サービスの提供のための窓口となる「(1)美唄郷土ポータルサイト」、このポータルサイトを経由し各サービスを実現するための「(2)システム」、『地域情報プラットフォーム』への準拠を考慮し各システムで共通的に利用される「(3)共通機能」から構成されます。住民及び企業や観光客は、インターネット経由でポータルシステムを利用することが可能です。

図表4 美唄郷土ポータルシステムの全体構成



(1) 美唄郷土ポータルサイト

美唄郷土ポータルサイトは、インターネット上で展開される美唄に関する情報の総合的な窓口です。インターネットの特性である国や地域を越えた情報伝達力を活用し、各システムとの連携により美唄特産物の販売や地域間交流、異世代交流、観光等の促進を図るためのものです。

(2) システム

各システムは、ポータルサイトを介し、住民や企業、観光客等に対しサービス提供を行う各サービスの総合的な窓口であり、今後、利用者のニーズや利便性を考慮しつつ、順次、追加を行います。将来的には地域の生活・産業・文化の情報を発信させ、対外的にはブランディングの形成に寄与し、もって地域経済の活性化に貢献することを目指します。具体的には以下の4つのシステムを構築しました。

①情報提供・収集システム

情報提供・収集システムは、蓄積された郷土の情報を、観光、農産品、特産品等に分類し、Webページに記事として提供する機能、提供記事を受け付ける機能、受け付けた記事を編集する機能、提供記事を審査・公開する機能、会員の登録・管理機能等を有します。

②農産品・特産品販売管理システム

農産品・特産品販売管理システムは、野菜や米を始めとした農産品や美唄の特産物、産作物等を広く販売する直売所において利用するシステムで、商品の受入、販売情報の管理、生産者への売上情報通知の機能を提供します。商品に貼り付けた2次元コードラベルを利用することで、生産者情報をパソコンや携帯電話から照会できる機能を持ち、直場所では生産者に関する情報及び商品に関する情報を詳細に確認することが可能となります。

農村地域が多い地方都市にある直売所の特徴として、生産者の作業場である農場等に程近い場所に設置されることが多く、インフラが万全に整備されていない可能性も高くあります。そのため、ネットワーク環境が無くとも直売所単独で動作する機能とネットワークが整備された状態で動作する機能の拡大範囲を明確にし、一時的にネットワークの通信障害が起こるケースでの動作保証を考慮したシステム構築を行いました。そのうえ、生産者の多くが農業者と想定すると、売れ行き状況報告や商品補充の依頼等の日中帯の通知は、携帯電話メールへの伝達手段を使うことが必須であり、その他の伝達手段として過去の履歴情報量が多い場合はパソコンから照会できる等、運用に考慮したサービスを提供します。

③顔の見えるインターネット直売システム

顔の見えるインターネット直売システムは、農産品・特産品等をインターネットで販売する機能を提供すると共に、生産者の顔が見える（生産者のプロフィールや商品に係る情報が表示される）ことで購入者に安心と安全をアピールし、親近感を与える機能です。商品に係る情報は、食へのこだわりやレシピ等を付加することで、さらに購入へのきっかけを増大させることを目的に構築を行いました。また、同時に商品の登録、販売情報の管理、生産者への売上情報通知等の機能を提供します。

④地域交流コミュニケーションシステム

地域交流コミュニケーションシステムは、生産者同士、生産者とアグリビジネスや野菜ソムリエの専門家とのコミュニティ等、参加権限のあるコミュニティ内での意見を活性化することで、新しい商品やビジネスの創出、美唄の魅力を再発見するためのSNS機能を提供します。

(3) 共通機能

共通機能は、『地域情報プラットフォーム』に準拠した考えで開発し、システムから必要とする機能と呼び出すことで、必要とするデータ等をデータベースから意識することなく取得、もしくは登録ができる機能を提供します。さらに、機能の変更や追加に柔軟な対応を可能とし、SOA（サービス指向アーキテクチャ）の考え方に基づいた『サービス単位機能』とします。具体的には以下に示す8つの共通機能を構築しました。

①認証機能

認証機能は、「美唄ファン」へのなりすましを防止し、会員が安心して商品の購入を可能とするため、利用者が「ログインしているか」、「サービスを利用する権限を持つか」、「誰なのか」を管理及び認証するサービスを提供します。

②ポイント管理機能

ポイント管理機能は、会員に対してポイントの追加や削除、確認を可能とする機能を提供します。

③Login/Logout 機能

Login/Logout 機能は、利用者に対しログインIDとパスワードの入力項目を持つWebページを表示します。また、入力後に受け取った組み合わせを確認し、正しい場合にセッションに対して一意のキーを生成するサービスを提供します。

④会員管理機能

会員管理機能は、「美唄ファン」会員の登録や会員への様々な美唄に関する情報の提供、会員のプロフィール情報の登録・管理を行います。これらの機能を提供するにあたり、ログインIDとパスワードにて会員であること確認・管理します。

⑤ヘルプ機能

ヘルプ機能は、システム毎に登録されたヘルプ情報を利用者に対して提供します。

⑥ログ作成機能

ログ作成機能は、各システムのサービスが処理した内容や運用の状況等を分析・把握するために必要なログ（履歴）情報を作成します。システム管理者や運用管理者は、日常におけるシステム状態の確認やシステム障害等により問題が発生した場合、作成されたログ情報を収集し分析や解析を行います。収集されたログ情報は、一般的な表計算ソフトウェア等で解析や分析が可能な形式で出力します。

⑦権限管理機能

権限管理機能は、各システムの提供する様々な機能を利用するため、若しくはサービスを制限するために、利用者毎ごと（一般会員、ビジネス会員、運用者、システム管理者等）に利用権限を設定し管理します。

⑧メール発行機能

メール発行機能は、各システムのサービス毎にメールアドレスに登録している生産者や利用者等に対して、選択したレイアウトに内容を記述または指定することで電子メールを発行できる機能を提供します。

2 運用結果

美唄郷土ポータルサイトを運用することで最も効果を挙げているのがSNSを始めとした世代や業種の壁を超えた利用者によるコミュニケーションの確立にあると考えています。

その意味で利用者から高評価をいただいたのは、安心して地域の課題を話し合える場としての交流コミュニケーションシステムでした。また本事業を推進する上で協議会や生産者を巻き込み課題への取りくみを進めてきたが、美唄の地域資源の掘り起こし（見つめなおし）を行うことでの知識はもとより、いかにICTを利用することで都市圏へアピールする手段を手に入れることが出来たかという意識の持ちように一定の変化が起こったことは特筆すべきことだと考えます。

とくにICTに慣れていなかった農業生産者や高齢者も率先して取り組みに参加していただきシステムを利用することのメリットや理由などに理解を示していただいたことは大きく評価できることと考える。また地域にとって今後のキラコンテツとなる投稿情報を情報源とする口コミや、その口コミを生かすことの出来る顔の見えるインターネット直売サブシステムや観光客が実際に地域に足を運んで新鮮でおいしい特産品、農産品を購入できる直売所管理システムなど、バーチャルな空間での情報だけではなく地に足をつけたシステム作りは、多くの生産者から評価をいただきました。ただし、北海道という土地柄により、特産品・農産品の商品である新鮮な野菜などが冬季に手に入らないことでシステム運用が試験運用レベルになってしまいました。

今後は商品を提供する生産者の意見もあり、4月に早々に出荷されるアスパラや米、焼き鳥などをシステムで販売することを予定しており、システム導入および運用の効果をあらためて収集分析したいと考えています。

3 課題・改修の必要性

現在運用中のシステム設計については協議会や住民の意見を募り、レビューを行いながら構築したシステムであるため、現在基本的な部分での課題は挙がっていません。美唄郷土ポータルサイトの運用を3月25日より開始し、実際には4月以降が本格的な稼働となるため、ユーザインターフェースレベルの改善点は今後発生してくると思っています。

美唄のすばらしさや魅力を伝えるためのシステムとして、また、ビジネスとしても公的な手段としても共存できるシステムとなるよう、協議会や地域住民と連携し、システムを更に改善していく必要があると考えております。

4 その他

(1) 活用したネットワーク種別・伝送速度

ネットワーク種別：フレッツ・ADSL モア III(47M タイプ)
通信速度：下り 47Mbps、上り 5Mbps

(2) 関連する既存の情報通信システムとの連携状況

今年度事業では、既存の情報通信システムとの連携はありませんが、今年度、官民が一体となったサービス連携と地域性の独自さを失うことなく、異なった魅力を持つ地域の連動を図ることを目的とした「美唄郷土ポータルサイト」を開設したことから、次年度以降、このポータルサイトを窓口とした既存の情報通信システムとの連携を考えています。

また、今年度において北海道の主要産業である農家向けのサービスを充実させていることから、北海道電子自治体共通基盤（HARP）と連携した全道連携も視野に進めようと考えています。

(3) 地域情報プラットフォームへの準拠の有無

本事業では、地域情報プラットフォームへ準拠した課題解決を基本的な考えとし、以下の開発方針で進めてきました。これらの開発方針は、今後も継続して推進します。

①多様化する住民ニーズへの対応

システム間の連携を可能とする「美唄郷土ポータルサイト」を開設し、このポータルサイトを窓口にも、官民が一体となったサービス連携と地域への展開が容易となることを視野に、美唄と同様の課題を抱えている地域に対して安価にシステム構築の実現を可能とします。

②マルチベンダ化の実現とコスト削減

特定ベンダに依存することのないようオープンソースによるシステム構築を採用したことで、マルチベンダ化が図られICT調達の自由度と投資のコストダウン、効率化が可能となります。また、極力機能の部品化を進めることによって部品の再利用性を高め、開発効率はもとより保守性・拡張性の向上に配慮します。

③地域IT産業の活性化を通じた産業振興

各システムの共通機能を部品化することで、他地域において本ポータルシステム全体または一部を展開した場合に、地場の中小ICT事業者に対する参画機会の拡大ひいては地域産業の振興という波及効果を期待します。

主な開発方針

- 今後のポータルシステムの模範となるシステムを構築します。
- 開発したシステムは原則、公開とし、他地域で利用可能なシステムを構築します。
- 開発する機能は、サービス単位に分割し独立性を確保した上で、開発単位の細分化、再利用性の確保をした設計とします。
- ポータルシステムの連携・変更について、柔軟に且つ、安価に行う仕組みを構築します。
- 利用者の利便性を確保するシステムを構築します。
- 24時間365日利用可能な、信頼性の高い運用を確保します。

5 システムの詳細

ネットワーク・システム構成図、業務ワークフロー、システム詳細設計書（機能編、画面編、DB編他）、試験手順書兼確認書、システム環境構築手順書等については、添付致します。

<実施体制説明書>

1 実施体制

地域ICT利活用モデル構築事業推進協議会

親会
 部会
 親会参加主体
 委託

(目的)
 情報通信システムの仕様の決定のほか、構築したモデルを継続的に運用するための体制、費用負担の在り方、モデル運営による課題解決のための具体的な行動計画、役割分担等について検討

美唄市

農業部門
 交流観光部門
 情報部門など

生産者団体等

美唄観光物産協会
 美唄地産フーズ研究会
 美唄こめこ研究会
 おいで菜祭
 農産物農産直売所びばま〜と
 中村えぷろん倶楽部
 美唄市農協青年部
 元氣招会
 美唄青年会議所
 気ままな主婦の会など

ICT等支援関係 オブザーバー

北海道企画振興部情報政策課
 北海道空知支庁地域振興部
 ポータルサイト運営に係る有識者
 道内産業活性化に係る有識者
 インターネットビジネスに係る有識者
 アグリビジネスに係る有識者
 農・特産品のブランド化に係る有識者
 地域再生に係る有識者など

基本設計

(目的)
 機能の変更や追加に柔軟な対応を可能とするためSOAに基づき、機能を分割し独立性を確保したうえで、開発単位の細分化、再利用性の確保を行うことを根本的な考え方とし、地域社会構築のための仕組みの形成を目的とした「地域情報プラットフォーム」に準拠したICT利活用モデルの構築、運用などの基本設計を実施

詳細設計

(目的)
 将来、他地域において適用が可能となる基本方針と、基本設計結果に基づき、システム変更や修正などの作業が非常に少ない、保守性、流用性の高いシステムの詳細設計を実施

ブランディング指導

(目的)
 売るための工夫や資源の価値を再発見する為に、地元生産者のビジネス意識向上および販売促進を目指し、有識者による指導を実施

美唄郷土ポータルサイト運用プロジェクト

(目的)
 構築したモデルを継続的に運用するためのビジネスモデルについての調査研究と体制、費用負担の在り方についての検討を実施

ブランディング推進プロジェクト

(目的)
 美唄の農産物・特産物のブランディング化に向けた地元素材や地域資源価値の見直しと再発見及び、農産物を利用してビジネスを展開するための、財務・諸手続きなど基礎的知識を習得について検討を実施

2 各主体の役割

NO	名 称	役 割
1	美唄市	実施主体。美唄市ICT利活用モデル構築事業推進協議会の運営。
2	美唄観光物産協会	美唄の観光物産品についての広報活動や実績から本事業への助言及び協力。
3	美唄地産フーズ研究会	地産地消の取組みや加工品開発などについて助言及び協力。
4	美唄こめこ研究会	農産加工品などについての効果的利用法及び研究成果の活用などについて助言及び協力。
5	おいで菜祭	観光農園、農産物直売などの運営実績から本事業へ助言及び協力。
6	農産物直売所ぴばま〜と	観光農園、農産物直売などの運営実績から本事業へ助言及び協力。
7	中村えぷろん倶楽部	農産加工品などについての効果的利用法及び研究成果の活用などについての助言及び協力。
8	ピュアファクトリー	低農薬栽培実績から安心・安全な特色ある農産品の確保や効果的な販売方法などについての助言及び協力。
9	(有)ライスクラップ	自社HPによる販売、独自栽培実績から安心・安全な農産品の効果的な販売方法などについての助言及び協力。
10	美唄市農協青年部	安心・安全な特色ある農産品の確保や効果的な販売方法などについての助言及び協力。
11	元氣招会	環境保全型農業実績から安心・安全な特色ある農産品の確保や効果的な販売方法などについての助言及び協力。
12	美唄青年会議所	各種イベントの推進や地域内コミュニケーションの活性化などの活動実績から地域経済活性化についての助言。
13	気ままな主婦の会	地産地消の取組み実績から農産品などの効果的利用法及び研究成果の活用などについての助言及び協力。
14	美唄市農協蔬菜部会	安心・安全な特色ある野菜作りを実践しており、農産品におけるブランディング、販売方法等について助言。
15	北海道企画振興部情報政策課 (オブザーバー)	共同アウトソーシング、地域プラットフォームの観点からシステム構築方法についての助言。
16	北海道空知支庁地域振興部 (オブザーバー)	空知管内産業の振興や地域間交流の促進の観点から他地域との連携（展開）の可能性についての助言。
17	(株)メディアネットワークス (オブザーバー)	ポータルサイト運営実績からサイトの集客効果や運営方法、メディアを活用した集客効などについての助言
18	(株)データクラフト (オブザーバー)	道内産業活性化実績から産業間連携や地域間連携の必要性、重要性、地域資源の活用方法についての助言
19	(株)インテリジェントリンク (オブザーバー)	数多くの著名なサイトおよび冊子等プロデュース実績からHP活用の重要性和ネットビジネスについて助言
20	(株)HVC戦略研究所 (オブザーバー)	アグリビジネス実績から農産物等を利用してビジネス展開にあたり重要な基礎知識・財務・諸手続について助言
21	シニアフルーツ&ベジタブルマイスター (オブザーバー)	道内唯一の野菜シニアソムリエとして農・特産品販売状況の現状とブランド化の必要性、重要性について助言
22	NPO法人炭鉱の記憶推進事業団 (オブザーバー)	地域再生実績から地域住民を巻き込んだ全市的な取り組みの必要性、重要性、相乗効果について助言

注) 必要な場合には補足説明図 (A4 判) 等を添付すること。

注) 協議会の開催要項・議事要旨を添付。

事業実施進行表

実施内容	H19 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H20 01月	2月	3月
協議会設立準備・会合▶ ▶	▶								
関連団体への事業説明	▶	▶	▶	▶					
協議会等開催		▶▶ ▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶▶▶	▶▶▶
基本設計、仕様書作成	▶		▶						
システム構築関連プロポーザル		▶	▶						
システム構築			▶	▶	▶	▶	▶	▶	▶
システム稼働					▶	▶	▶	▶	▶
広報・プレスリリース等									▶ ▶
指標値測定								▶ ▶	▶
報告書作成									▶ ▶

.....▶ 予定 ▶ 実績